

住まいのインテリアを評価する用語の分類

意味類似による分類

Classification of Interior Trait Words on Dwelling Classification Based on Meaning-Similarities

(1997年4月2日受理)

近藤 信子 中谷青三郎
Nobuko Kondoh Seizaburo Nakatani

Key words: インテリア評価用語 interior trait word, 意味類似 meaning - similarity,
クラスターの階層構造 hierarchical clustering scheme

1. 緒 言

近年、インテリアに関する雑誌などが実に多く出版されている。一方で、インテリアコーディネーターの資格取得をめざす人も多数であるなどインテリアに関する一般の関心は、とみに高くなっている。

人々は自分流のライフスタイルにあった住空間イメージを持っている。そのイメージの把握は、インテリア計画を進める上で重要なことである。

インテリアやその構成要素のイメージを把握するために、SD尺度（形容詞対からなる両極尺度）で、対象とする物や空間の印象を評価させ、その結果からインテリアに対する人の特性を明らかにするという方法がある。そのための評価用語は多種多様な形容語が用いられているが、どのような用語を設定するかが、その調査結果に大きな影響を与えるので、用語の選定には十分な注意が必要である。SD法では、評価・活動性・力量性の3因子が析出されるような尺度構成を基本とし¹⁾、それに調査目的にそって用語が加えられて尺度とされることが多い²⁾。また、インテリアに関する雑誌にみられるインテリアイメージを表現する用語のなかには使用頻度の高い用語もあれば低い用語もあり、社会状況の変化によっても使用頻度は異なってくるものと思われる。

このようなことから、インテリア評価尺度の作成に関する研究が必要であると考え、まず、用語の分類を試みることにした。

評価用語の分類については、藤原らが服装の評価用語について検討している^{2) 3) 4)}。その第1報では服装イメージを表現する用語の意味類似に基づいて分析検討されている。

本報では、住まいのインテリアを評価する用語を収集し、意味内容の類似度に基づいて用語をいくつかのクラスターに分類し、さらに、これらのクラスター相互の階層構造を明らかにすることを

目的とした。

2. 方 法

1) 住まいのインテリアを評価する用語の収集および選定

用語の収集に当たっては、まず、女子学生66名を対象に台所（作業空間）、居間（公的空間）、自分の部屋（私的空間）について想定される「好ましいインテリアイメージ」と「好ましくないインテリアイメージ」について、出来るだけ多くの形容語を用いて表現させた。調査時期は1995年11月である。

併せて、インテリアに関する雑誌、研究論文など⁵⁾からも用語の収集を行った。収集された評価用語の選択は以下の基準にしたがって集約した。①インテリア評価用語として不適当な語は削除した。②同義語、類似語はまとめて、その代表となる語を選択した。③評価用語は、対語から構成されることが多いがインテリアのイメージ用語として重要と考えられる場合は1対を選び、それほど重要と考えられない場合は、対語のうちの1語を採用した。

2) K J法による分析

選定されたインテリアを評価する用語がどのように位置付けられるかを明らかにするために、意味内容が類似している用語同士を集めたマップを作成し、K J法^{6) 7)}による概念分析を行った。それに基づいて、用語がどのように類型化されるのか仮説を立てた。

3) インテリアを評価する用語の意味類似によるグループ化

選定した用語を1語ずつ1枚のカードに記入し、判定者に全用語のカードを1組として配布した。判定者には、「カードには、インテリアのイメージを表現する用語が記入されています。これらのカードのなかで意味内容が類似していると考えられるカードを集めてグループ化してください。いくつのグループにまとめてもらってもよいし、また、1グループは何枚のカードを集めても結構です。ただし、グループ化できないと考えられるカードについては、グループ化はしないでください。」との教示を与えた。判定者は女子学生80名で1996年5月に実施した。

4) 分析

グループ化された用語から用語間の類似率 (S_{jk}) を (1) 式で算出した。

$$S_{jk} = N_{jk} / n \quad \dots\dots\dots (1)$$

ただし、 N_{jk} は用語 j と k が同じグループに組み入れられた頻度、 n は判定者総数である。

次に、類似率を (2) 式を用いて用語間の距離 (P_{jk}) に変換した。

$$P_{jk} = 1 - S_{jk} \quad \dots\dots\dots (2)$$

この距離行列を入力データとし、SPSS^x版⁸⁾統計分析パッケージを用いて、Ward法によるクラスター分析を行った。そして、出力されたデンドログラムをもとにクラスターの解釈を行い、その階層構造から、インテリアイメージの構造を検討することにより、K J法による分析から立てた仮説の検証を行い、インテリア評価用語を分類した。

3. 結果および考察

1) 選定された評価用語

女子学生を対象に評価用語の収集を行った結果、延べ総数749語が得られた。出現頻度の最も高い用語は「明るい」、次いで「落ち着く」であり、いずれもインテリア評価の基本となる用語と思われる。併せて、インテリア雑誌、研究論文などからも用語を収集した。インテリアのイメージ表現に適さない用語を除外し、前述の選定方法に従って整理し、最終的に表1に示す73語を選定した。

表1 選定された住まいのインテリア評価用語

1 明るい	26 ごうかな	51 華やかな
2 飽きのこない	27 合理的な	52 控えめな
3 味けない	28 個性的な	53 広々とした
4 温かみのある	29 子供っぽい	54 風流な
5 陰気な	30 古風な	55 不潔な
6 美しい	31 寂しい	56 ぶなんな
7 ウッディな	32 さむぎむとした	57 平凡な
8 エキゾチックな	33 さわやかな	58 変化のある
9 おしゃれな	34 シックな	59 ベーシックな
10 落ち着かない	35 しぶい	60 ほのほのとした
11 落ち着く	36 シンプルな	61 無機的な
12 おとなしい	37 上品な	62 ムーディな
13 大人っぽい	38 自由な	63 メルヘンチックな
14 女の子らしい	39 地味な	64 モダンな
15 快適な	40 すっきりした	65 やさしい
16 解放的な	41 涼しそうな	66 安っぽい
17 カジュアルな	42 清潔な	67 やすらぐ
18 カラフルな	43 素朴な	68 やわらかい
19 かわいい	44 楽しい	69 優雅な
20 カントリー風な	45 単調な	70 ゆったりした
21 機能的な	46 つかれる	71 洋風の
22 気取った	47 冷たい	72 ロマンチックな
23 きばつな	48 ナチュラルな	73 和風の
24 暗い	49 にぎやかな	
25 幻想的な	50 派手な	

2) KJ法によるインテリアを評価する用語のグループ化

選定した73語の意味内容が類似している用語同士を集め、KJ法による分析を行いグループ化したマップを図1に示す。

肯定的評価を表していると思われる用語は62語であり、(ナチュラル)、(幻想的)、(華麗)、(派手)、(控えめ)、(愛らしさ)、(個性的)、(シック)、(合理的)、(くつろぎ)、(楽しさ)、(おしゃれ)、(ベーシック)、(爽快)、(温かさ)、(風流)の16個の小グループに分類した。

否定的評価を表していると思われる用語は11語であり、(疲労)、(安っぽさ)、(陰うつ)の3個の小グループに分類した。KJ法では後述の基本クラスターに対応する小分類についてのみ検討した。

このKJ法の結果を仮説として設定した。次に、この仮説を実証するために、用語の類似性判定に基づくクラスター分析を行った。

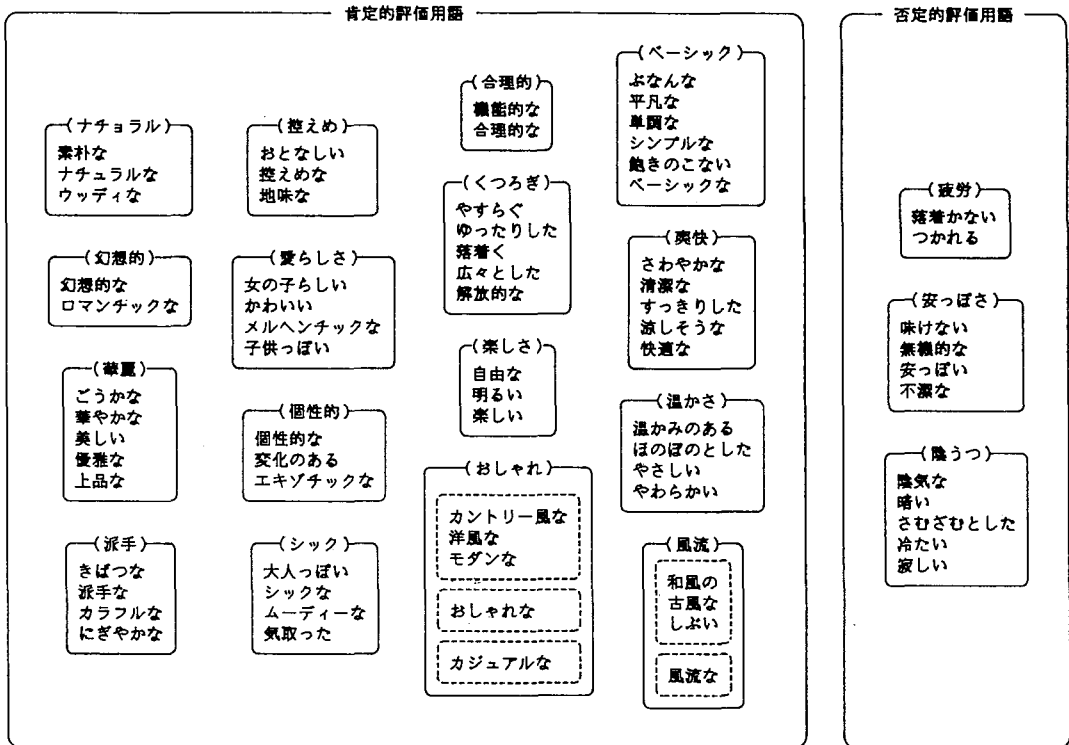


図1 インテリア評価用語のKJ法による分類

3) インテリアを評価する用語のグループ化の結果と類似率

類似率算出のための73語のグループ化されたグループ数は、評定者によって異なり、最小が7、最大が31にまとめられた。なお、グループ化された数の平均は15.8であった。

73語のすべての組み合わせについて類似率を算出した結果、73×73の用語の組み合わせのなかで、「和風の」と「風流な」の用語がグループ化された頻度が最も多く、類似率は0.80であった。次は類似率0.75で「女の子らしい」と「かわいい」、 「陰気な」と「暗い」の組み合わせであった。いずれの判定者によってもグループ化されず、類似率が0の用語の組み合わせの数は684対であった。

4) クラスタ分析によるインテリアイメージの階層構造

Ward法によるクラスタ分析から出力されたデンドログラムを図2に示す。

この図は一つの用語を一つのクラスタとみなし、順次、最も類似したクラスタどうしが集合し、最終的にはすべての用語が一つのクラスタになるところまで分析した結果である。デンドログラムの分割については、KJ法による分析の小グループの総数19個に対応するように、それに近い数で分割（破線で示す）し、17個を基本のクラスタとした。

クラスタ1は「風流な」から「古風な」までの3語で構成されており、3語を包括したイメージを表す、(和風)のインテリアと命名した。クラスタ2は「おとなしい」と「控えめな」の2語から構成されているので、(控えめ)を表すクラスタである。クラスタ3は「ぶなんな」から「単調な」までと、「シンプルな」から「ベーシックな」までの二つの2語以上からなるサブクラスタから構成されているので(平凡で飽きない)インテリアと命名した。このように二つ以上の2語以上からなるサブクラスタから構成されているクラスタは、ほとんどの場合、それぞれのサブクラスタから用語をピックアップして命名するようにした。クラスタ4は「機能的な」と「合理的な」の2語からなっており、(合理的)なインテリアと命名した。クラスタ5は「さわやかな」から「快適な」までの用語からなっており、(爽快)を表すクラスタと解釈した。以後、同様な方法で命名すると、クラスタ6は(やさしくて温かい)、クラスタ7は(くつろぎ)、クラスタ8は(自由で楽しい)、クラスタ9は(洋風)、クラスタ10は(おしゃれ)、クラスタ11は(ロマンチックで愛らしい)、クラスタ12は(疲労)、クラスタ13は(個性的で派手)、クラスタ14は(シック)、クラスタ15は(華麗で気取った)、クラスタ16は(安っぽい)、クラスタ17は(冷たくて陰気)となった。

さらに17個の各クラスタは互いに類似しているものから順に結合を繰り返す、クラスタの階層ができる。

(控えめ)なインテリアのクラスタ2は、(平凡で飽きない)インテリアのクラスタ3と結合してクラスタJを形成する。クラスタJは、そのクラスタを構成している用語から〔控えめで飽きない〕インテリアを表している。同様にクラスタ4と5は結合して〔合理的で爽快な〕インテリアを表すクラスタKを形成する。クラスタKはJと結びついて〔合理的・爽快で飽きない〕クラスタIを形成している。さらに、クラスタIはクラスタ1の(風流)なインテリアと結びついてクラスタGに集約される。このインテリアは、クラスタ6, 7, 8, 9, 10から構成されるクラスタHと対比して考察すると〔和風のイメージ〕

のインテリアといえる。このように上位のクラスターについては、そのクラスターを構成する用語の意味を表す総合的な名称とした。

クラスター6と7が結びつき「やすらぐ温かさ」を表すクラスターLを形成する。クラスター9と10は結合して「洋風でおしゃれ」なクラスターNを形成する。さらに、クラスターNは8と結合して「おしゃれで楽しい」インテリアを表すクラスターMを形成する。クラスターMとNが結合してクラスターHを形成する。クラスターHは、このクラスターを構成している下位のクラスターから総合的に考察すると「洋風のイメージ」のインテリアであることがわかる。この段階において和風、洋風という生活様式に関するインテリアイメージに分類できることがわかった。

さらに、これら和風と洋風のイメージを表すクラスターが結合してクラスターFをつくる。このクラスターFと対称にあるクラスター11は「かわいい」「メルヘンチックな」などの用語から構成されており（ロマンチックで愛らしい）という一般的な生活観とは異なった意味合いが強い「特別なイメージ」のインテリアを表している。これと対比し、また、下位のクラスターの意味も合わせ考察すると、クラスターFは生活観に基づいた「一般的なイメージ」のインテリアと解釈される。構成用語には、洋風、和風という建築観につながるものや個人ならびに家族員が生活を展開していく過程からイメージされるものが多くみられる。

クラスター12と13は結合してクラスターOを形成する。クラスターOはそのクラスターを構成している用語から「派手で疲れる」インテリアを表している。クラスター14と15は結合して「シックで気取った」インテリアを表すクラスターPを形成する。クラスターPはクラスターOと結合してクラスターEを形成する。クラスターEは、このクラスターを構成している下位のクラスターから総合的に解釈し、「対外的イメージ」のインテリアと命名した。このクラスターを構成する用語には「落ち着かない」「疲れる」という否定的な意味をもつ用語が含まれている。これは、例えば来客を迎える場などで、外面を保つために生起する特有な感情からイメージされる形容語で、好ましくないが容認せざるをえないという位置づけにあると考えられる。このクラスターと対称にあるクラスターDは、生活様式や生活行為からイメージされる構成用語が多く「対内的イメージ」のインテリアと解釈した。

小林⁹⁾は、住宅の人々へ与える意味をさぐって、住空間は五つの心理的な要因から成り立つことを指摘している。①和風にひかれるか、洋風にひかれるか、②モダンな住宅を望むか、クラシックな住宅を望むか、③ポピュラーなものか、スペシャルなものか、④単純か、複雑かのいずれを選ぶのか、⑤来客本位にかたむくか、家族本位にかたむくか、の五つの要因である。本研究の意味類似を基準としたインテリア評価用語のクラスター分析においても、このうちのいくつかに対応するイメージに大別されたことは興味深い。

次に、クラスターDとEは、いずれも肯定的な評価を表す用語としてBのクラスターに集約される。一方、クラスター16と17は否定的な評価を表すクラスターCを形成している。最終的には、63語を含むBのクラスターと10語からなるCのクラスターが統合されて、すべてのイン

住まいのインテリアを評価する用語の分類

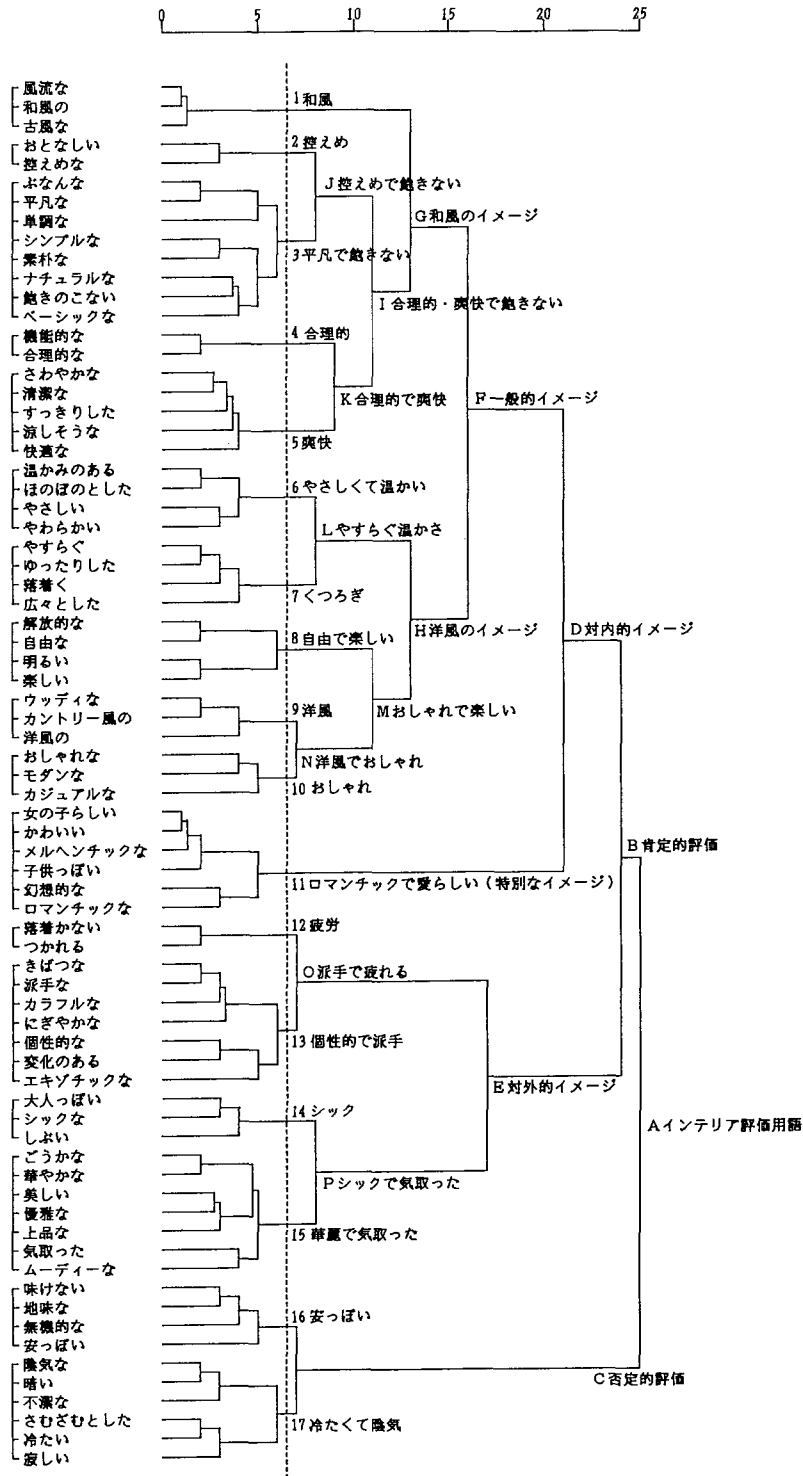


図2 インテリア評価用語のクラスターの階層構造

テリア表現用語を含むクラスターAになることがわかった。

以上のように、最初に分類された17の各クラスターは、概ね類似したインテリアのイメージのクラスターどうしから順次結合して上位のクラスターを形成していった。また、各クラスターがどの段階でどのように結合されるかを示すクラスターの階層を明らかにすることができた。そして、各段階のクラスターの意味内容をかなり明確に解釈することができたことから、インテリアを評価する尺度の資料として有効であると思われる。

次に、前述のKJ法による仮説の検討を、クラスター分析の結果に基づいて行った。

5) KJ法とクラスター分析との比較

筆者らが仮説としたKJ法の概念分析とクラスター分析の結果を比較したところ、最も大きく違った点は、KJ法による分析で筆者らが否定的な評価イメージと位置づけた（疲労）が肯定的なイメージと位置づけた（派手）と結合して、最終的には肯定的な形容語として統合されたことである。（疲労）の構成用語は「落ち着かない」「疲れる」の2語でクラスター分析では上位のクラスターE〔対外的なイメージ〕を形成していく。次に、（ナチュラル）と（ベシック）は同一グループとされ、クラスター3の（平凡で飽きない）インテリアに対応している。同様に、（幻想的）と（愛らしさ）は同一グループとされ、クラスター11の（ロマンチックで愛らしい）インテリアに対応している。また、（おしゃれ）の構成用語はクラスター9と10の基本クラスターに分かれた。

以上のように若干の相違はあったもののKJ法による小分類と基本クラスターとは、概ね対応づけられた。

4. 要 約

住まいのインテリアを評価する用語を収集し、その中から選定した73語についてKJ法による概念分析を行った。それと共に、女子学生80人を評定者として73語を意味類似に基づいてグループ化させ、73語すべての組み合わせについて類似率を算出し、これを距離へ変換してWard法によるクラスター分析を行った。

その結果、17の基本クラスター1（風流）、2（控えめ）、3（平凡で飽きない）、4（合理的）、5（爽快）、6（やさしくて温かい）、7（くつろぎ）、8（自由で楽しい）、9（洋風）、10（おしゃれ）、11（ロマンチックで愛らしい）、12（疲労）、13（個性的で派手）、14（シック）、15（華麗で気取った）、16（安っぽい）、17（冷たくて陰気）が抽出された。さらに、これらクラスターの階層構造を求めたところ、高次にまとまったのは〔和風のイメージ〕、〔洋風のイメージ〕、〔一般的なイメージ〕、〔特別なイメージ〕、〔対内的なイメージ〕、〔対外的なイメージ〕であった。そして、最終的に、肯定的なインテリア評価のクラスターと否定的なインテリア評価のクラスターが構成されることがわかった。

文 献

- 1) 岩下豊彦：S D法によるイメージの測定，川島書店，東京（1983）
- 2) 藤原康晴，川端澄子：家政誌，**40**，287（1989）
- 3) 藤原康晴，川端澄子，近藤信子：家政誌，**41**，241（1990）
- 4) 藤原康晴，川端澄子，近藤信子：家政誌，**43**，45（1992）
- 5) 私の部屋づくり，学習研究社（1995），他
- 6) 川喜田二郎：発想法，中央公論社，東京（1987）
- 7) 川喜田二郎：続・発想法，中央公論社，東京（1970）
- 8) 垂水共之，西脇二一，石田千代子，小野寺孝義：新版SPSS^xII 解析編1，東洋経済新報社，東京，136（1990）
- 9) 小林重順：建築デザイン心理学，彰国社，30（1977）